

厚生労働科学研究費補助金 慢性の痛み対策研究事業
難治性神経因性疼痛の基礎疾患の解明と診断・治療精度を向上させるための研究班
平成25年度ワークショップ

日時：平成25年7月27日（土）14：00～18：00

場所：道後山の手ホテル（松山市道後鷺谷町1-13 TEL 089-998-2111）

4階 山の手倶楽部

プログラム

(14:00～14:40)

I. 手根管症候群の成因、機能評価、手術成績

座長 平田 仁

1 「手根管症候群手術例の長期成績」

畑中大介、加藤博之

信州大学整形外科

2 「日本人に最適化した患者立脚型評価による手根管症候群の治療成績の検討」

中野智則、平田 仁

名古屋大学手の外科

セッションまとめ討論（10分）

(14:40～15:20)

II. 複合性局所疼痛症候群(CRPS) の治療法の展望

座長 川真田 樹人

3 「本邦における複合性局所疼痛症候群の診断と治療の現状 ー第二報ー」

田中 聡¹⁾、長櫓 巧²⁾、川真田樹人¹⁾

信州大学医学部麻酔・蘇生学¹⁾、愛媛大学大学院医学系研究科生体機能管理学²⁾

4 「CRPS の長期予後からの治療法」

檜垣暢宏、長櫓 巧

愛媛大学医学部附属病院麻酔科蘇生科愛媛大学麻酔蘇生科

セッションまとめ討論（10分）

--- 休憩(15:20～15:30) ---

(15:30～16:10)

III. 前骨間後骨間神経麻痺の発生機序と実態

座長 加藤 博之

5 「前・後骨幹神経麻痺を主徴とする特発性末梢神経障害の病態と治療」

福島和広¹⁾、池田修一¹⁾、加藤博之²⁾

信州大学脳神経内科、リウマチ・膠原病内科¹⁾、同 整形外科²⁾

6 「前・骨間神経麻痺の臨床状、手術所見、神経束剥離術の短期成績 ー多施設前向き臨床研究からー」

加藤博之

信州大学整形外科

セッションまとめ討論（10分）

(16:10～16:50)

IV. 疼痛を主症状とする多発神経炎の診断と治療

座長 神田 隆

7 「神経サルコイドーシスの疼痛評価」

佐野宏徳, 古賀道明, 尾本雅俊, 小笠原淳一, 川井元晴, 神田 隆
山口大学神経内科

8 「有痛性糖尿病神経障害の臨床病型と病型別治療指針の検討」

出口尚寿¹⁾、高嶋 博²⁾

鹿児島大学糖尿病・内分泌内科学¹⁾ 同 神経内科・老年病学²⁾

セッションまとめ討論 (10分)

(16:50～17:30)

V. 新規研究課題

9 「子宮頸がんワクチン接種後の四肢の難治性疼痛の成因解明と治療法検討について」

池田修一

信州大学脳神経内科、リウマチ・膠原病内科

(17:30～18:00)

VI. 総合討論

厚生労働科学研究費補助金 慢性の痛み対策研究事業

「難治性神経因性疼痛の基礎疾患の解明と診断・治療精度を向上させるための研究」

研究代表者 池田修一

事務局 関島良樹、倉科美鈴

信州大学医学部内科学 (脳神経内科、リウマチ・膠原病内科)

〒390-8621 松本市旭3-1-1 TEL 0263-37-2673 FAX 0263-37-3427

e-mail itamihan@shinshu-u.ac.jp

厚生労働科学研究費補助金 慢性の痛み対策研究事業
難治性神経因性疼痛の基礎疾患の解明と診断・治療精度を向上させるための研究班
子宮頸がんワクチン副反応分科会（平成25年度）

日時：平成25年9月24日（火） 17:00～19:00

場所：信州大学医学部附属病院 東9階 会議室

プログラム

挨拶 研究代表者 池田 修一

(発表時間 各研究者 30分)

(17:05～17:35)

1 「HPV感染と子宮頸がん」

塩沢丹里

信州大学産婦人科

(17:35～18:05)

2 「子宮頸がんワクチン接種後の四肢の難治性疼痛」

池田修一

信州大学脳神経内科、リウマチ・膠原病内科

(18:05～18:35)

3 「痛みの受容体とその閾値」

田淵克彦

信州大学分子細胞生理学講座

(18:35～19:00)

4 総合討論

厚生労働科学研究費補助金 慢性の痛み対策研究事業

「難治性神経因性疼痛の基礎疾患の解明と診断・治療精度を向上させるための研究」

研究代表者 池田修一

事務局 関島良樹、倉科美鈴

信州大学医学部内科学（脳神経内科、リウマチ・膠原病内科）

〒390-8621 松本市旭3-1-1 TEL 0263-37-2673 FAX 0263-37-3427

e-mail itamihan@shinshu-u.ac.jp

厚生労働科学研究費補助金 慢性の痛み対策研究事業
難治性神経因性疼痛の基礎疾患の解明と診断・治療精度を向上させるための研究

平成 25 年度 研究報告会 プログラム

日時：平成 26 年 1 月 10 日（金）10:30～15:00

場所：KKR ホテル東京 11 階 白鳥
（東京都千代田区大手町 1-4-1）

厚生労働科学研究費補助金 慢性の痛み対策研究事業

「難治性神経因性疼痛の基礎疾患の解明と診断・治療精度を向上させるための研究」

研究代表者 池田修一

事務局 関島良樹、倉科美鈴

信州大学医学部内科学（脳神経内科、リウマチ・膠原病内科）

〒390-8621 松本市旭 3-1-1

TEL 0263-37-2673 FAX 0263-37-3427

e-mail itamihan@shinshu-u.ac.jp

10:30 開会挨拶 研究代表者 池田 修一

10:35～11:35

セッション1 後骨間神経麻痺, 神経痛性筋萎縮症, CRPS 座長: 加藤 博之

1. 特発性後骨間神経麻痺における“くびれ”の病理像

10:35～10:50

○小松雅俊 (こまつ まさとし)¹、内山茂晴¹、池田修一²、加藤博之¹

¹信州大学医学部 整形外科、²同 脳神経内科、リウマチ・膠原病内科

2. 整形外科領域における神経痛性筋萎縮症の診療実態の調査

10:50～11:05

○福島和広 (ふくしま かずひろ)¹、関島良樹²、加藤博之³、池田修一²

¹信州大学医学部 難病診療センター、²同 脳神経内科、リウマチ・膠原病内科、

³同 整形外科

3. 複合性局所疼痛症候群の長期予後

11:05～11:20

長櫓 巧¹、○檜垣暢宏 (ひがき のぶひろ)¹

¹愛媛大学大学院医学系研究科 麻酔・周術期学

4. 本邦における複合性局所疼痛症候群の診療の現状 サブグループ解析 —第3報—

11:20～11:35

川真田樹人¹、○田中 聡 (たなか さとし)¹、長櫓 巧²

¹信州大学医学部 麻酔蘇生学、²愛媛大学大学院医学系研究科 麻酔・周術期学

11:35～12:20

セッション2 手根管症候群

座長: 岩崎 倫政

5. 手根管症候群患者の正中神経の微小血行動態の変化

～造影超音波検査を用いて～

11:35～11:50

○岩崎倫政 (いわさき のりまさ)¹、船越忠直¹、本宮 真²

¹北海道大学大学院医学研究科 整形外科学分野、²釧路労災病院 整形外科

6. 脳機能解析による疼痛機序解明の取り組み

11:50～12:05

平田 仁¹、○岩月克之（いわつき かつゆき）¹、中野智則¹

¹名古屋大学医学部 手の外科

7. 手根管症候群患者における手根管開放術前後の日常生活、就労状況調査

12:05～12:20

○畑中 大介（はたなか だいすけ）¹、内山 茂晴²、中村 恒一²、伊坪 敏郎²、林 正徳²、
加藤 博之²

¹相澤病院 整形外科、²信州大学医学部 整形外科

8. 質問票・評価表による臨床評価への新たな取り組み

～アプリ化・クラウド化と疾患特異的評価表による治療成績評価～

12:20～12:35

平田 仁¹、○中野智則（なかの ともりの）¹、岩月克之¹

¹名古屋大学医学部 手の外科

12:35～13:30 昼食（班構成員会議）

13:30～14:15

セッション3 内科的疾患に伴う痛み

座長：神田 隆

9. 糖尿病性神経障害の臨床病期と手根管症候群の関連

13:30～13:45

○出口 尚寿（でぐち たかひさ）^{1,2}、堀之内 秀治^{1,3}、有村 愛子^{1,2}、中村 友紀¹、
高嶋 博¹

¹鹿児島大学大学院 神経内科・老年病学、²同 糖尿病・内分泌内科

³鹿児島市立病院 内科

10. 上肢の痛みから発症するニューロパチー：特に神経サルコイドーシスに関して

13:45～14:00

○佐野 宏徳（さの ひろのり）¹、古賀 道明¹、尾本 雅俊¹、小笠原 淳一¹、川井 元晴¹、
神田 隆¹

¹山口大学大学院医学系研究科 神経内科学

11. パーキンソン病の痛み

14:00～14:15

○西川典子 (にしかわ のりこ)¹、辻井智明¹、岩城寛尚¹、永井将弘¹、
野元正弘¹

¹愛媛大学大学院医学系研究科 薬物療法・神経内科学

14:15～15:00

セッション4 子宮頸がんワクチン

座長：川眞田 樹人

12. シナプス成熟と痛み感受性

14:15～14:30

○田渕克彦 (たぶち かつひこ)¹

¹信州大学医学部 分子細胞生理学講座

13. HPV による子宮頸癌の発生機序に関する最近の知見

14:30～14:45

○塩沢丹里 (しおざわ たんり)¹

¹信州大学医学部 産婦人科

14. 子宮頸がんワクチン接種後の副反応の実態調査

14:45～15:00

池田修一¹、○阿部隆太 (あべ りゅうた)¹、木下朋実¹、日根野晃代¹

¹信州大学医学部 脳神経内科、リウマチ・膠原病内科

15:00

閉会挨拶 研究代表者 池田 修一



第69回 信毎健康フォーラム《上田》

平成24年 2月25日 土 13:30~16:30
(開場 13:00)

会場：上田創造館（上田市上田原1640）

t h e m e

手足の痛み 原因と対策



■主催／信濃毎日新聞社、(公財)信毎文化事業財団

■協力／信州大学医学部

■協賛／キッセイ薬品工業株式会社

■後援／長野県、長野県教育委員会、上田市、上田市教育委員会、長野県医師会、上田市医師会、
小県医師会、信州医学振興会、長野県栄養士会、長野県看護協会、
長野県国民健康保険団体連合会、健康保険組合連合会長野連合会、
日本ケーブルテレビ連盟信越支部、上田ケーブルビジョン、信毎東信地区販売店会

p r o g r a m
(敬称略)

13:00 開 場

13:30 開 会

■主催者挨拶

信濃毎日新聞社 事業局長

大橋 聖一

13:35 フォーラムI

■解説報告「整形外科医の立場から」

信州大学医学部整形外科教授

加藤 博之氏

■解説報告「ペインクリニックの立場から」

信州大学医学部麻酔蘇生学教授

川真田 樹人氏

■解説報告「脳神経内科医の立場から」

信州大学医学部脳神経内科教授

池田 修一氏

15:10 休憩(15分)

15:25 フォーラムII

■パネルディスカッション

パネリスト

加藤 博之氏

パネリスト

川真田 樹人氏

パネリスト

池田 修一氏

コーディネーター

(信濃毎日新聞編集委員)

飯島 裕一

16:20 会場からの質問

16:25 コーディネーターのまとめ

16:30 閉 会



手足の痛み—原因と対策

解説報告

■コーディネーター：飯島 裕一（信濃毎日新聞編集委員）

信州大学医学部整形外科教授

加藤 博之氏



「整形外科医の立場から」

手足の痛みは、骨、軟骨、関節、筋腱（けん）、神経などの運動器の外傷や疾患に起因することが多くあります。特に、現在の日本が直面している超高齢化社会では、これらの運動器に加齢に伴う変性が生じた結果、手足の痛みで困っている方が増えています。

手足に痛みを起す変性疾患の代表として、頸椎（けいつい）椎間板ヘルニア、腰部脊柱（せきちゅう）管狭窄（きょうさく）症、手根管症候群、手の腱鞘（けんしやう）炎、手指の変形性関節症、TFCC 損傷、変形性膝関節症、変形性足関節症、外反母趾（ぼし）と扁平（へんぺい）足障害、モートン病などがあります。

整形外科では、これらの疾患に対する予防、日常生活指導、筋力訓練、コルセットや装具処方、薬物治療、関節や神経へのブロック治療、そして手術治療などを行っています。近年、超音波や MRI などの画像診断の進歩により、これらの疾患の病態解明は大きく進歩しています。また手術治療では、内視鏡を用いる低侵襲法の開発、長持ちする人工関節置換術、関節を温存する関節形成術などの方法が大きく進歩しています。また、多数の患者さんの治療結果を分析する臨床研究により、科学的に効果のある治療法が明らかになってきています。最新の整形外科的治療法をご紹介します。

【かとう・ひろゆき】 信大医学部整形外科（運動機能学）教授。医学博士。専門は手、肘（ひじ）、末梢神経の外傷・疾病。1954年千葉県生まれ。北海道大医学部卒。北海道大医学部助教授などを経て現職。

信州大学医学部麻酔蘇生学教授

川真田 樹人氏



「ペインクリニックの立場から」

痛みはけがや病変による侵害受容性痛、神経の機能異常による神経障害性痛、そして心因性痛に分類され、すべてがペインクリニックの対象です。部位も、頭部・顔面痛・頸肩腕（けいけんわん）痛・胸背部痛・腰痛・腰下肢痛・骨盤内・陰部痛など身体のあらゆる部位に痛みが生じます。

中でもペインクリニックを受診する患者さんの多くは、手足の痛みを訴えます。原因としては、筋骨格系疼痛（筋・筋膜性疼痛、椎間板ヘルニア、変形性脊椎症、脊柱管狭窄症、腰椎術後疼痛、肩関節周囲炎など）、帯状疱疹（ほうしん）・帯状疱疹後神経痛、がん性疼痛、閉塞性動脈硬化症やパージャール病、膠原病などによる難治性潰瘍、術後痛、複合性局所疼痛症候群、幻肢痛、引き抜き損傷後疼痛などがあります。

ペインクリニックでは神経ブロックに加え、薬物療法、光線療法、理学療法、東洋医学療法などを応用して、痛みの治療を行っています。最近では、高周波熱凝固による神経ブロック法、脊髄刺激電極埋込み術、硬膜外内視鏡、ボツリヌス注射などの治療法も進歩してきました。またエックス線透視や CT ガイドに加え、超音波ガイド下での神経ブロック法も用いられます。2001年からの10年間を痛みの10年（the Decade of Pain Control and Research）とアメリカが位置づけ、世界中で痛みの研究や治療が大変進歩しました。これらを踏まえ、ペインクリニックで診る手足の痛みについてお話したいと思います。

【かわまた・みきと】 信大医学部麻酔蘇生学教授。医学博士。専門は麻酔科学、ペインクリニック。1960年徳島県生まれ。京都府立医大卒。北海道立肢体不自由児療育センター医師、エール大学研究員、札幌医大講師などを経て現職。

信州大学医学部脳神経内科教授

池田 修一氏



「脳神経内科医の立場から」

手足の慢性疼痛（とうつう）は患者さんを常時苦しめ、日常生活の動作を大きく制限します。特に高齢者では、四肢の廃用萎縮と関節拘縮（こうしゅく）を伴いがちです。このため厚労省は平成 23 年度、慢性疼痛の原因解明と新たな治療法確立を目指して「慢性の痛み対策事業」を立ち上げました。

私は難治性神経因性疼痛部門を担当することになり、本日の演者である加藤・川真田両教授を含む国内の専門家を集めて研究組織をスタートさせました。神経痛に代表される末梢神経障害が原因となる手足の痛みは、CT や MRI を用いた画像診断により容易に診断ができるわけではないため、誤診または診断の遅れが起こりやすい領域です。専門医による詳細な病歴聴取と身体診察が診断の決め手となります。

また病因として、膠原病（こうげんびやう）類似的自己免疫が関与している場合があり、免疫調整剤の投与により症状の改善が得られる場合が少なくありません。これらを含めて神経因性疼痛の最新の考え方を説明したいと思います。

【いけだ・しゅういち】 信大医学部脳神経内科、リウマチ・膠原病内科教授。医学博士。専門は神経内科、遺伝性代謝病。1954年飯田市生まれ。信大医学部卒。米国カリフォルニア大サンディエゴ校留学、信大医学部講師などを経て現職。

手足の痛み我慢せず

第69回信毎健康フォーラム(信濃毎日新聞社、信毎文化事業財団主催、キッセイ薬品工業協賛)は、「手足の痛み一原因と対策」をテーマに2月25日、上田市の上田創造館で開いた。痛みは、心身が発する警告信号だ。だが痛みの苦しきは、他人になかなか理解してもらえず、生活の質も低下しがちだ。しかし今、「痛みを我慢させられた時代」から、「つらい痛みは、できるだけ早く取り除く時代」を

迎えている。フォーラムでは、整形外科、ペインクリニック、脳神経内科の専門家が、それぞれの立場から分かりやすく解説。約500人の参加者は、メモを取るなど熱心に聞かされた。信大医学部の加藤博之教授、川島田樹人教授、池田修一教授の解説報告とパネルディスカッションの要旨を報告する。(同会では信濃毎日新聞編集委員・坂島裕一)

加齢で骨・筋肉・腱変化

手足の痛みの原因は、関節、腱、神経などさまざまある。特に加齢変化が最も影響を及ぼしている。



信大医学部整形外科(運動機能学)教授、医学博士、専門医の上田市の加藤博之先生。1954年、千葉県生まれ。北海道大学医学部助教授を経て現職。

加齢による変化は、骨、筋肉、腱、神経などさまざまある。特に加齢変化が最も影響を及ぼしている。骨は、加齢とともに骨密度が低下し、骨折のリスクが高くなる。筋肉は、加齢とともに筋力と筋量が減少し、運動能力が低下する。腱は、加齢とともに弾力性が低下し、怪我のリスクが高くなる。

整形外科から見ると

信大医学部教授 加藤 博之さん

加齢による変化は、骨、筋肉、腱、神経などさまざまある。特に加齢変化が最も影響を及ぼしている。骨は、加齢とともに骨密度が低下し、骨折のリスクが高くなる。筋肉は、加齢とともに筋力と筋量が減少し、運動能力が低下する。腱は、加齢とともに弾力性が低下し、怪我のリスクが高くなる。

加齢による変化は、骨、筋肉、腱、神経などさまざまある。特に加齢変化が最も影響を及ぼしている。骨は、加齢とともに骨密度が低下し、骨折のリスクが高くなる。筋肉は、加齢とともに筋力と筋量が減少し、運動能力が低下する。腱は、加齢とともに弾力性が低下し、怪我のリスクが高くなる。

加齢による変化は、骨、筋肉、腱、神経などさまざまある。特に加齢変化が最も影響を及ぼしている。骨は、加齢とともに骨密度が低下し、骨折のリスクが高くなる。筋肉は、加齢とともに筋力と筋量が減少し、運動能力が低下する。腱は、加齢とともに弾力性が低下し、怪我のリスクが高くなる。

パネル討論

「精神科と神経内科の連携」をテーマにしたパネル討論が行われた。加藤博之先生、川島田樹人先生、池田修一先生が参加し、それぞれの専門分野から、精神科と神経内科の連携の重要性について話し合った。

薬処方通りに続けて 理学療法は診断後に

加藤博之先生は、薬の処方通りに続けて、理学療法は診断後に実施する必要があると述べた。薬は、痛みを軽減するために処方されるが、理学療法は、痛みを根本的に解消するために必要である。診断後に理学療法を実施することで、痛みを軽減し、生活の質を向上させることができる。

神経痛治療 服薬が基本

ペインクリニックの視点

信大医学部教授 川真田 樹人さん

神経痛の治療は、服薬が基本である。ペインクリニックの視点から、神経痛の治療法について解説した。神経痛は、痛みを伴った神経の障害によるもので、適切な治療を行うことで痛みを軽減することができる。服薬は、痛みを軽減するために最も効果的な治療法である。

神経痛の治療は、服薬が基本である。ペインクリニックの視点から、神経痛の治療法について解説した。神経痛は、痛みを伴った神経の障害によるもので、適切な治療を行うことで痛みを軽減することができる。服薬は、痛みを軽減するために最も効果的な治療法である。

神経痛の治療は、服薬が基本である。ペインクリニックの視点から、神経痛の治療法について解説した。神経痛は、痛みを伴った神経の障害によるもので、適切な治療を行うことで痛みを軽減することができる。服薬は、痛みを軽減するために最も効果的な治療法である。

治療できる時機逃さず

信大医学部教授 池田 修一さん

神経痛の治療は、適切な時機に行うことが重要である。池田修一先生は、神経痛の治療のタイミングについて解説した。神経痛は、痛みを伴った神経の障害によるもので、適切な治療を行うことで痛みを軽減することができる。適切な時機に治療を行うことで、痛みを軽減し、生活の質を向上させることができる。

脳神経内科の立場から

脳神経内科の立場から、神経痛の治療法について解説した。脳神経内科では、神経痛の原因を特定し、適切な治療を行うことが重要である。神経痛は、痛みを伴った神経の障害によるもので、適切な治療を行うことで痛みを軽減することができる。脳神経内科の専門家は、神経痛の原因を特定し、適切な治療を行うことで、痛みを軽減し、生活の質を向上させることができる。

神経痛の治療は、適切な時機に行うことが重要である。池田修一先生は、神経痛の治療のタイミングについて解説した。神経痛は、痛みを伴った神経の障害によるもので、適切な治療を行うことで痛みを軽減することができる。適切な時機に治療を行うことで、痛みを軽減し、生活の質を向上させることができる。

脳神経内科の立場から

信大医学部教授 池田 修一さん

脳神経内科の立場から、神経痛の治療法について解説した。脳神経内科では、神経痛の原因を特定し、適切な治療を行うことが重要である。神経痛は、痛みを伴った神経の障害によるもので、適切な治療を行うことで痛みを軽減することができる。脳神経内科の専門家は、神経痛の原因を特定し、適切な治療を行うことで、痛みを軽減し、生活の質を向上させることができる。

脳神経内科の立場から、神経痛の治療法について解説した。脳神経内科では、神経痛の原因を特定し、適切な治療を行うことが重要である。神経痛は、痛みを伴った神経の障害によるもので、適切な治療を行うことで痛みを軽減することができる。脳神経内科の専門家は、神経痛の原因を特定し、適切な治療を行うことで、痛みを軽減し、生活の質を向上させることができる。

脳神経内科の立場から、神経痛の治療法について解説した。脳神経内科では、神経痛の原因を特定し、適切な治療を行うことが重要である。神経痛は、痛みを伴った神経の障害によるもので、適切な治療を行うことで痛みを軽減することができる。脳神経内科の専門家は、神経痛の原因を特定し、適切な治療を行うことで、痛みを軽減し、生活の質を向上させることができる。

脳神経内科の立場から

脳神経内科の立場から、神経痛の治療法について解説した。脳神経内科では、神経痛の原因を特定し、適切な治療を行うことが重要である。神経痛は、痛みを伴った神経の障害によるもので、適切な治療を行うことで痛みを軽減することができる。脳神経内科の専門家は、神経痛の原因を特定し、適切な治療を行うことで、痛みを軽減し、生活の質を向上させることができる。

脳神経内科の立場から

脳神経内科の立場から、神経痛の治療法について解説した。脳神経内科では、神経痛の原因を特定し、適切な治療を行うことが重要である。神経痛は、痛みを伴った神経の障害によるもので、適切な治療を行うことで痛みを軽減することができる。脳神経内科の専門家は、神経痛の原因を特定し、適切な治療を行うことで、痛みを軽減し、生活の質を向上させることができる。



「手足の痛み一原因と対策」をテーマに開かれた信毎健康フォーラムのパネルディスカッション

受講者募集 参加費無料

主催：愛媛大学医学部 共催：ヤンセンファーマ株式会社、いよてつ高島屋

〈第21回〉ヘルスアカデミー

「痛みを克服するために」

■日時／平成24年7月28日(土) 午後1時～4時

■場所／7階キャッスルルーム

■募集人数／先着180名さま(定員になり次第締め切らせていただきます)

最近、痛みの治療が著しく進歩し、多くの痛みが制御可能となっています。ただ、同じ痛みでもいろいろな原因で起こり、有効な治療法は異なります。今回の公開講座では、いろいろな種類の痛みを取りあげ、どのようにすれば痛みが予防できるか、また克服できるかをお話します。

- 午後0時30分～ 開場・受付
- 午後1時～ 開会あいさつ ◎愛媛大学医学部附属病院 麻酔科蘇生科 教授 長檜 巧 氏

第一部 講演

- 午後1時5分～

基調講演「痛みを克服するために — 痛みのいろいろ —」

◎愛媛大学医学部附属病院 麻酔科蘇生科 教授 長檜 巧 氏

講演1「手足の痛み：原因と対策 — 神経内科の立場から —」

◎信州大学医学部附属病院 脳神経内科、リウマチ・膠原病内科 教授 池田 修一 氏

講演2「脊椎が原因の痛み — 整形外科医の立場から —」

◎愛媛大学医学部附属病院 脊椎センター 講師 尾形 直則 氏

講演3「私の神経痛体験 — 整形外科医の立場から —」

◎愛媛大学医学部附属病院 脊椎センター 講師 森野 忠夫 氏

講演4「各種痛みの治療 — 薬物治療を中心に —」

◎愛媛大学医学部附属病院 麻酔科蘇生科 講師 坪田 信三 氏

- 午後3時5分～〈休憩15分〉

第二部 Q&Aコーナー「あなたの疑問・質問にお答えします」

- 午後3時20分～〈質疑応答〉

コーディネーター・司会 ◎愛媛大学医学部附属病院 麻酔科蘇生科 教授 長檜 巧 氏

パネリスト ◎信州大学医学部附属病院 脳神経内科、リウマチ・膠原病内科 教授 池田 修一 氏

◎愛媛大学医学部附属病院 脊椎センター 講師 尾形 直則 氏

◎愛媛大学医学部附属病院 脊椎センター 講師 森野 忠夫 氏

◎愛媛大学医学部附属病院 麻酔科蘇生科 講師 坪田 信三 氏

- 午後3時55分～ 開会あいさつ ◎愛媛大学医学部附属病院 麻酔科蘇生科 教授 長檜 巧 氏



長檜 巧 氏



池田 修一 氏



尾形 直則 氏



森野 忠夫 氏



坪田 信三 氏

お申し込み・お問い合わせ

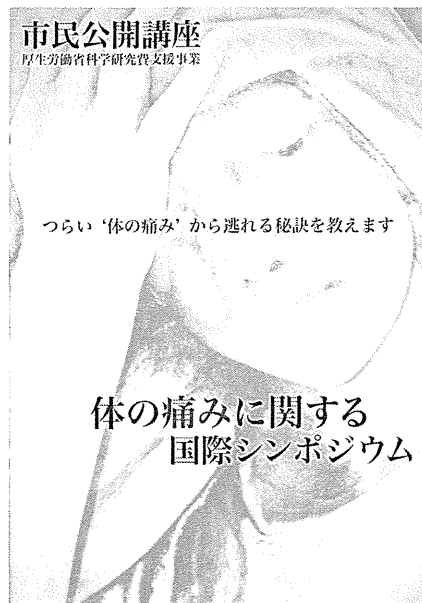
ヘルスアカデミー健康セミナー係 松田・鎌田 TEL(089)948-2437/FAX(089)948-2621

Email:ekikaku@iyotetsu-takashimaya.co.jp

※電話・FAX・Emailでお申し込みいただくか、お申込書に必要事項をご記入のうえ、1階または3階の案内所にご提出ください。
※お預かりした個人情報は、今回のお申し込みのみに利用いたします。

いよてつ  Takashimaya MATSUYAMA





市民公開講座

(厚生労働省科学研究費支援事業)

体の痛みに関する国際シンポジウム

どうしたら痛みの苦しみから逃れられるか

名古屋大学野依記念学術交流館

平成 25 年 1 月 20 日 (日)

午後 1 時 20 分開場

午後 1 時 40 分-4 時 40 分

主催

名古屋大学医学部手の外科学講座

NPO 法人ハンドフロンティア

共催

中日新聞社

「難治性神経因性疼痛の基礎疾患の解明と診断・治療精度を向上させるための研究」班

プログラム

- 13時20分 受付開始
- 13時40分 開催の辞
名古屋大学医学部手の外科学教授 平田仁
- 13時50分-14時50分 特別講演 1・2
(座長) 池田修一 信州大学第3内科教授
- 13時50分~14時20分 講演1
「新たなる慢性疼痛の研究、そして治療」
Dr. Bruce Parsons
Senior Director, Medical Affairs Primary Care Business Unit
Pfizer Inc.
- 14時20分-14時50分 講演2
「痛み治療における貼付剤の役割と製剤的工夫」
寺原孝明
久光製薬株式会社 研究開発本部製剤研究所所長
- 14時50分-15時00分 休憩
- 15時00分-16時00分 特別講演 3・4
(座長) 加藤博之 信州大学整形外科教授
- 15時00分-15時30分 講演3
「心と痛みの関係」
西原真理
愛知医科大学学際的痛みセンター特任准教授
- 15時30分-16時00分 講演4
「スポーツ選手の痛み-アスレチックトレーナーの取り組み」
大隈重信
株式会社BIGBEAR 代表取締役 アスレチックトレーナー
- 16時00分-16時10分 休憩
- 16時10分-16時40分 総合討論
(座長) 牛田享宏 愛知医科大学学際的痛みセンター教授
平田仁 名古屋大学手の外科学教授

International symposium on body aches.
- How can we solve the problem of pain?-

- Program -

13:40	Opening address
13:50 - 14:20	“New Research and Treatments for Chronic Pain ” Bruce Parsons (Pfizer Inc.)
14:20-14:50	“Pharmaceutical innovations and role of transdermal patch on pain treatment ” Takaaki Terahara (Hisamitsu Pharmaceutical Co.,Ltd)
14:50–15:00	Break Time
15:00-15:30	“The relationship between mind and pain” Makoto Nishihara (Multidisciplinary Pain Center, Aichi Medical University)
15:30-16:00	“The pain in athletes – The efforts of athletic trainer –” Shigenobu Okuma (BIGBEAR Co.,Ltd)
16:00–16:10	Break Time
16:10–16:40	Discussion



前骨間神経麻痺・後骨間神経麻痺に対する 全国整形外科多施設診療グループ

病態、予後、治療法について

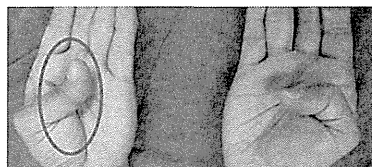
最新情報

参加施設のご案内

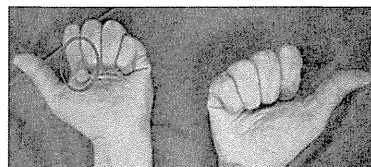
診療・研究文献

前骨間神経麻痺、後骨間神経麻痺の病態、予後、治療法について

前骨間神経麻痺の原因は不明です。腕や肘の痛みを感じた後に、親指と人差し指の第一関節を曲げることが困難なことに気づきます。手指の感覚の障害はありません。前骨間神経は肘付近で正中神経から分岐して、主に親指と人差し指の第一関節を曲げる筋肉を支配しているため、この神経が麻痺すると親指と人差し指を曲げることが困難になります。



母指の第一 (IP) 関節屈曲不能

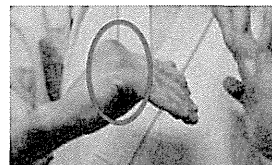


示指の第一 (DIP) 関節屈曲不能

後骨間神経麻痺の原因も不明です。やはり腕や肘の痛みを感じた後に、親指から小指の全部あるいは何本かを伸ばすことが困難になります。手首の運動障害や手指の感覚障害はありません。後骨間神経は肘周囲で橈骨神経から分岐して、指を伸ばす神経を支配しているため、この神経が麻痺すると親指から小指の全部あるいは何本かを伸ばすことが困難になります。



指のつけ根 (MP) 関節伸展不能

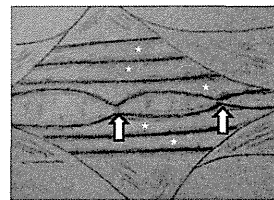


指のつけ根 (MP) 関節伸展不能

いずれの神経麻痺においても共通しているのは、発症前後に腕に激痛を生じることが多いこと、感覚異常が少ないことが多いこと、発症後2~3か月で自然回復が始まることが多い点です。

一方、自然回復が思わしくない患者さまの神経を手術で展開すると、神経の中の束 (たば) に「くびれ」がみられることが多く (右図)、その「くびれ」を剥離すると回復がみられる場合があることも知られています。

ただ大変残念なことに、何割かの患者さまは回復しないことも事実です。これまでに世界中の多くの末梢神経専門家がその原因や治療方法を確立するために努力を重ねて参りましたが、いまだに明らかにできておりません。その最大の原因は、それぞれの施設における患者さまの数が少ないため、各種の治療法の正確な比較が困難なことにあります。



手術中に上腕から肘にかけての神経を顕微鏡で観察すると、1本の神経の中に正常な神経束 (*) とくびれのある神経束 (矢印) がみられます

そこで平成24年2月から、末梢神経を外科的に治療する国内の整形外科医 (手外科医) が前骨間神経麻痺、後骨間神経麻痺の患者さまの病態と治療経過を登録し、両神経麻痺の自然経過、臨床像、治療効果の解明にあたることになりました。これらの点が明らかになれば、世界中にいらっしゃる患者さまにとって大きな福音となります。

この取り組みは厚生労働省科学研究費補助金慢性の痛み対策研究事業「難治性神経因性疼痛の基礎疾患の解明と診断・治療精度を向上させるための研究」(信州大学脳神経内科; 池田修一班長)の支援を受けて2012年2月より開始したところです。

前骨間神経麻痺・後骨間神経麻痺に対する全国整形外科多施設診療グループ

【事務局】

信州大学医学部附属病院整形外科
〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1

川崎市立川崎病院整形外科
〒210-0013 神奈川県川崎市川崎区新川通12-1

[V] 班構成員名簿

厚生労働科学研究費補助金 慢性の痛み対策研究事業
「難治性神経因性疼痛の基礎疾患の解明と診断・治療精度を向上させるための研究」班

区 分	氏 名	所 属 等	職 名
研究代表者	池田 修一	信州大学医学部脳神経内科、リウマチ・膠原病内科	教 授
研究分担者	岩崎 倫政	北海道大学医学部整形外科 上肢班	教 授
	加藤 博之	信州大学医学部運動機能学講座 (整形外科)	教 授
	川眞田 樹人	信州大学医学部麻酔蘇生学講座	教 授
	塩沢 丹里	信州大学医学部産婦人科学講座	教 授
	田淵 克彦	信州大学医学部分子細胞生理学講座学講座	教 授
	福島 和広	信州大学医学部附属病院難病診療センター	准 教 授
	平田 仁	名古屋大学大学院医学系研究科 機能構築医学専攻運動・形態外科学講座 手の外科学教室	教 授
	神田 隆	山口大学大学院医学系研究科 神経内科学講座	教 授
	長櫓 巧	愛媛大学大学院医学研究科 麻酔・蘇生学教室	教 授
	西川 典子	愛媛大学大学院医学系研究科薬物療法・神経内科学 講座	准 教 授
	高嶋 博	鹿児島大学大学院医歯学総合研究科 神経病学講座	教 授
事 務 局	関島良樹 倉科美鈴	信州大学医学部脳神経内科、リウマチ・膠原病内科 〒390-8621 長野県松本市旭3-1-1 T E L 0263-37-2673 F A X 0263-37-3427 e-mail itamihan@shinshu-u.ac.jp	

